



SIRS

矢田部智昭

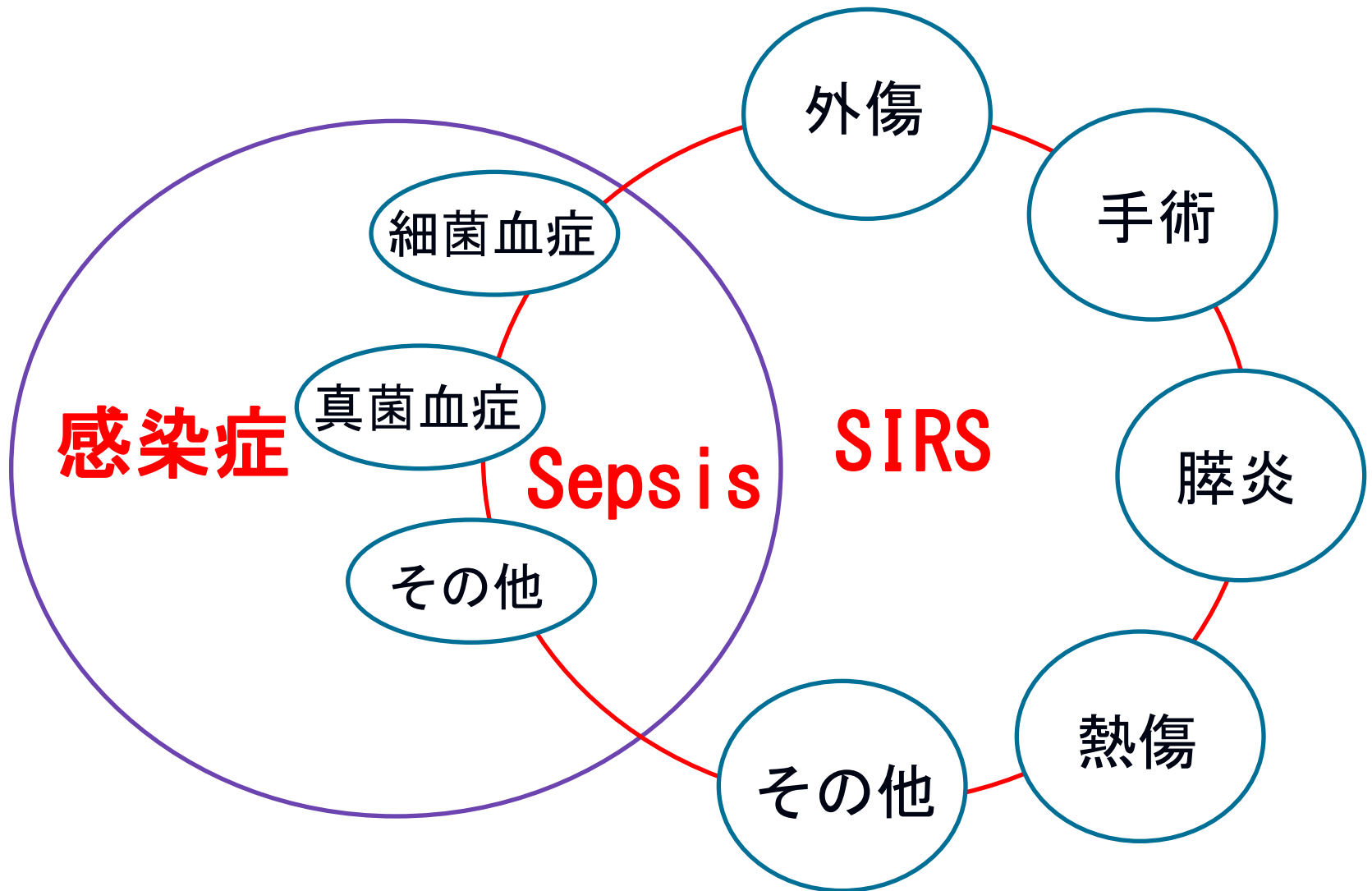
SIRSとは

SIRSとは

全身性炎症反応症候群 (Systematic Inflammatory Response Syndrome)

- ・ 外傷，手術，膵炎，熱傷，消化管における細菌転移により惹起される全身性炎症反応
- ・ サイトカインを中心とした免疫－炎症反応による非特異的な全身生体反応を把握するための臨床概念
- ・ 1992年にAmerican College of Chest PhysiciansとSociety of Critical Care Medicineの合同委員会が敗血症に関連する診断基準として発表し，敗血症とは感染症に起因するSIRSと定義した

SIRS



診断基準

以下の項目を2つ以上満たすものをSIRSとする

項目	
体温	$< 36^{\circ}\text{C}$ or $> 38^{\circ}\text{C}$
呼吸	呼吸数 $> 20/\text{min}$ or $\text{PaCO}_2 < 32 \text{ mmHg}$
脈拍	$> 90/\text{min}$
白血球	> 12000 or < 4000 or 幼若型 $> 10\%$

SIRSの病態

●Stage I

- ・ 侵襲に対して，局所でサイトカインが産生
- ・ 炎症反応を惹起し，創治癒と網状内皮系を活性化

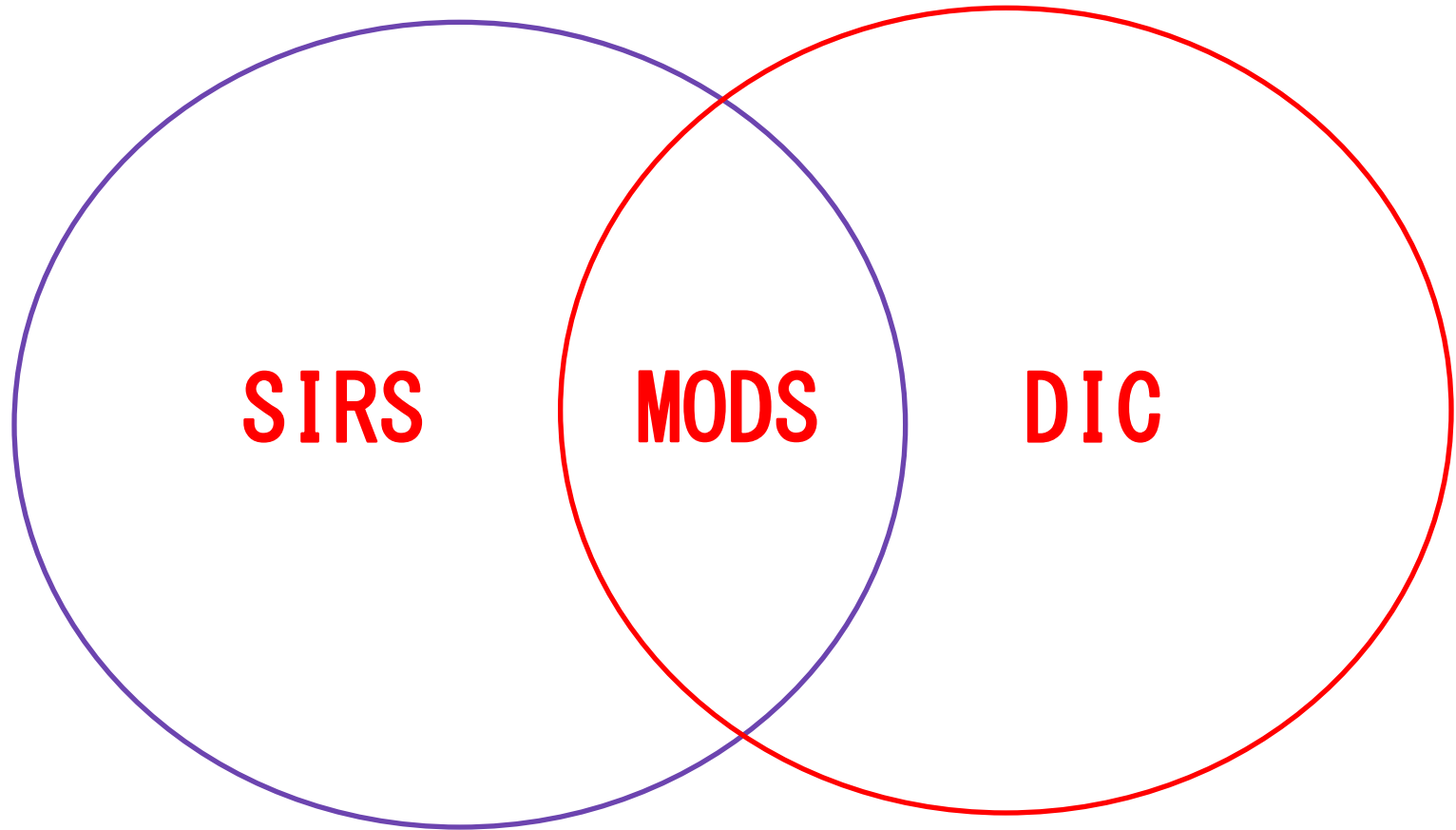
●Stage II

- ・ サイトカインが循環系へ放出されマクロファージや血小板が産生
- ・ 炎症惹起因子と内因性拮抗因子により恒常性維持

●Stage III

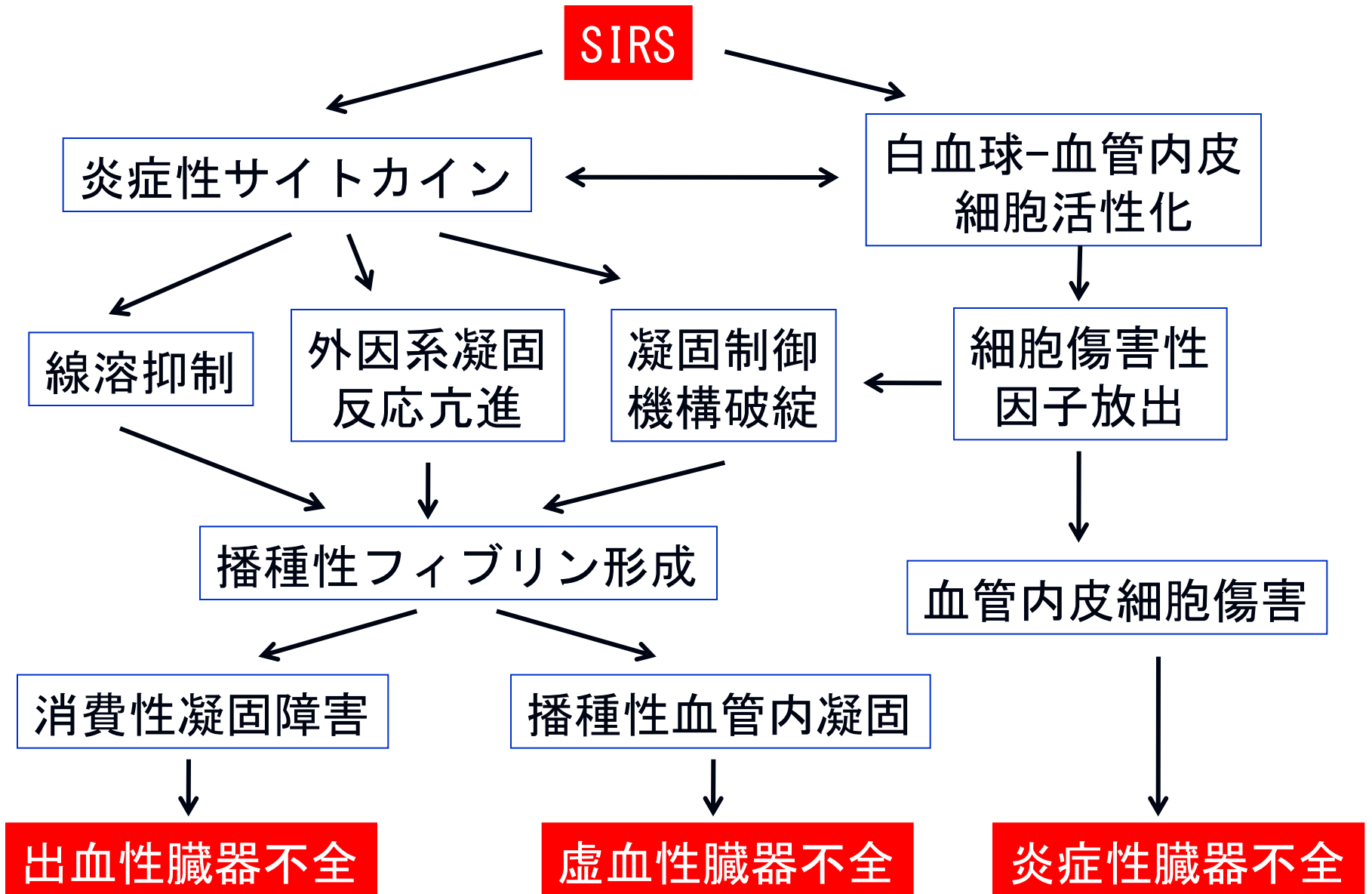
- ・ コントロールが破綻し，炎症が全身に波及
- ・ サイトカインは保護因子から破壊因子となる
- ・ 多数のカスケード，網状内皮系の活性化により，循環動態は破綻し，臓器不全が生じる

SIRSと多臓器不全

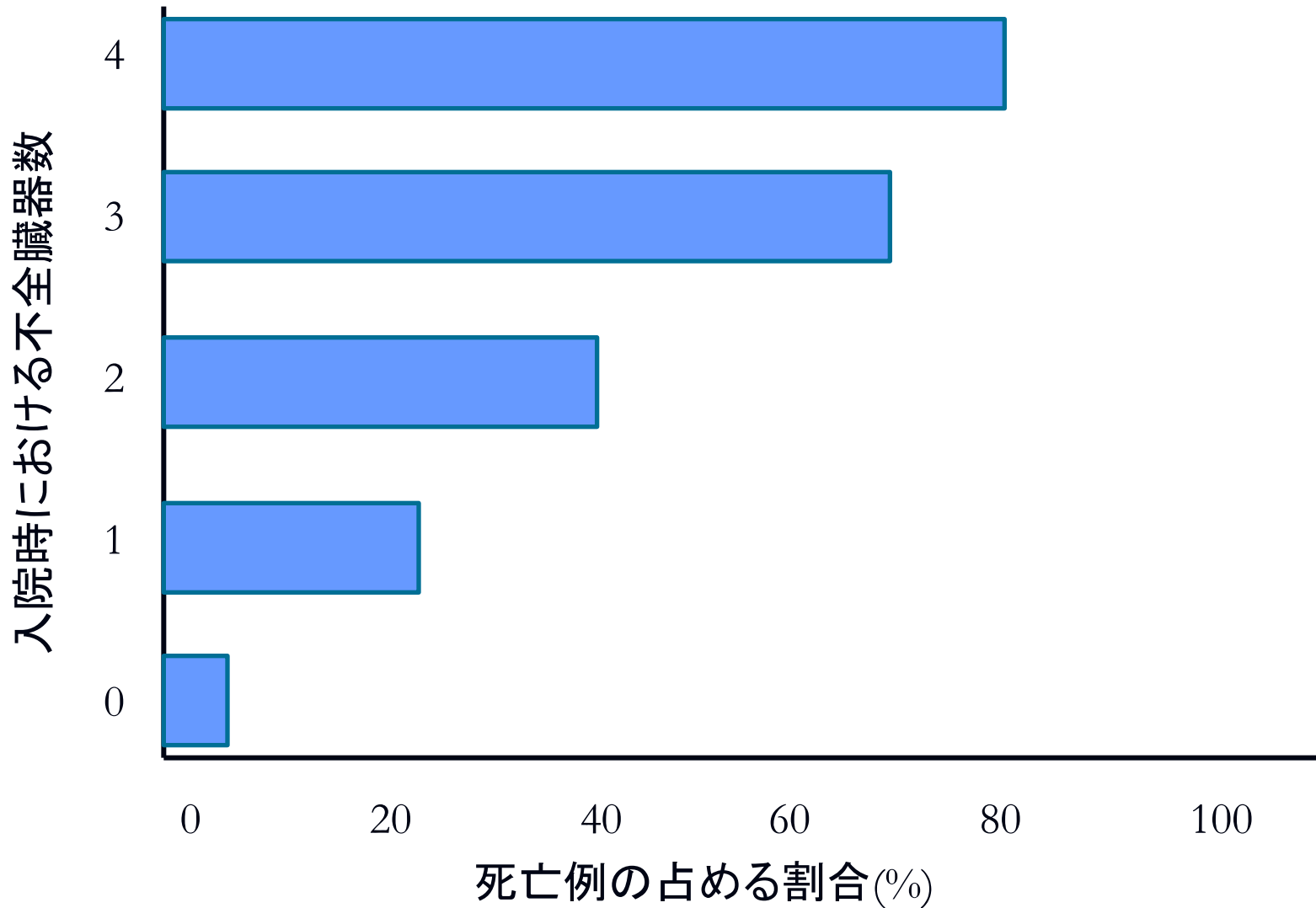


病的凝固線溶系反応と炎症反応が臓器不全に導く

SIRSと多臓器不全



SIRSと多臓器不全



診断と治療が遅れてしまうことで、死亡率が増加する